

里の春、山の春

新見南吉

野原にはもう春がきていました。

桜がさき、小鳥はないておりました。

けれども、山にはまだ春はきていませんでした。

山のいただきには、雪も白くのこっていました。

山のおくには、おやこの鹿がすんでいました。

坊やの鹿は、生まれてまだ一年にならないので、

春とはどんなものか知りませんでした。

「お父ちゃん、春ってどんなもの。」

「春には花がさくのわ。」

「お母ちゃん、花ってどんなもの。」

「花ってね、きれいなものよ。」

「ふうん。」

けれど、坊やの鹿は、花をみたこともないので、

花とはどんなものだから、

春とはどんなものだから、よくわかりませんでした。

(小学一・二年生課題)